

モーツァルト室内管弦楽団 第164回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 164. Regulärkonzert

「ベートーヴェン・シリーズ」第5回

2015年5月10日(日)午後2時■いずみホール

Sonntag, 10. Mai, 2015 14Uhr Izumi Hall Osaka

- 主催:モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.org>
- 協賛:いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。



モーツァルト室内管弦楽団 第164回定期演奏会
Mozart-Kammerorchester / 164. Regulärkonzert

2015年5月10日(日)午後2時 いずみホール
Sonntag, 10. Mai, 2015 14Uhr Izumi Hall Osaka

〈ベートーヴェン・シリーズ〉その5

ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven
(1770-1827)

交響曲 第1番 作品21
Sinfonie Nr.1 C-dur op.21

- I. Adagio molto — Allegro con brio
- II. Andante cantabile con moto
- III. Menuetto : Allegro molto e vivace
- IV. Adagio — Allegro molto e vivace

ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19*
Konzert Nr.2 B-dur für Klavier und Orchester op.19*

- I. Allegro con brio
- II. Adagio
- III. Rondo : Allegro molto

* * *

交響曲 第7番 イ長調 作品92
Sinfonie Nr.7 A-dur op.92

- I. Poco sostenuto — Vivace
- II. Allegretto
- III. Presto
- IV. Allegro con brio

ピアノ独奏: 上野 真* / Klavier-Solo: Makoto Ueno*
指揮: 門 良一 / Dirigent: Ryoichi Kado

◆ベートーヴェンのエネルギーと古典性

ベートーヴェンの音楽は昔も今も高い人気を誇っている。私の学生時代(半世紀以上も前だが)と比べてもむしろ人気は高まっていると思うくらいである。その秘密は一体なんだろうか。それは言うまでもなく彼の音楽の持つエネルギーであろう。それもただの元気印ではなく、人生の苦難を克服してなお余りあるエネルギーである。彼は音楽家として致命傷と言える耳の病気に耐え、また貴族に飼われるのではなく独立した芸術家としての生き方を確立した偉大な人物である。「偉大な」という形容詞はまさにベートーヴェンのためにある言葉と言えよう。この偉大な作曲家によるエネルギーに満ちた音楽はわれわれを鼓舞してやまない。

しかし彼はハイドンやモーツァルトのように膨大な数の作品を残したわけではない。交響曲の数もふたりの先輩に比べればはるかに少なく9曲しかない。その「不滅の9曲」と呼ばれる交響曲の中でも人気のある曲は限られている。有り体に言えば彼の交響曲や協奏曲のあわせてせいぜい10曲ばかりの作品が世界中で数え切れないほど演奏されているのである。「偉大なエネルギー」が集中したベートーヴェンの数少ない名曲が世界を征服していることになる。

そういった作品の中でも本日演奏する「第7交響曲」は最もベートーヴェンらしいエネルギーに満ち満ちた曲ではあるまいか。はっきり言って狂気と紙一重の爆発性に溢れた音楽である。われわれ演奏家にとっては、この作品を前にするとクールに構えることなど全くできない、どう抗ってもそのエネルギーの渦の中に引っ張りこまれてしまう作品なのである。

この交響曲の今一つの特徴は、他の有名交響曲、「英雄」、「運命」、「田園」といった曲の持つ、その呼び名からも想像できるようなストーリー性がこの曲には全くないということである。つまり、「第7番」はピュアな絶対音楽なのだ。そのような作品が今日、他の名前のついた有名交響曲に伍して高い人気を持つということは私には非常に不思議に思える。

さて、モーツァルト室内管弦楽団は数年前までベートーヴェンを演奏することを意図的に避けてきた。その理由は楽団創立時の理念にある。創立当時の日本のオーケストラ界はベートーヴェン全盛であった(今でもベートーヴェンの人気は衰えていないと思うが、人気の対象は多様化している)。ほとんどのオーケストラ・メンバーはどんな曲でも「ベートーヴェンの」、つまり荒っぽく力まかせに、弾いていたのだ。モーツァルト室内管弦楽団はそのような演奏傾向に反旗を翻し、モーツァルトやハイドンを宮廷音楽のスタイルに沿って優雅に繊細に演奏する目的で結成された。ベートーヴェンの作品でも協奏曲は取り上げる機会があったが、交響曲は楽団の目標とした演奏スタイルが確立されるまではという意味で、あえて演奏してこなかったのである。しかし、ベートーヴェンは古典派の作曲家であり、ハイドン、モーツァルトの後継者であるという観点から、彼の作品をわれわれの演奏スタイルに基づいてあらためて見直そうということになった。われわれ

はベートーヴェンの作品には約40人の室内オーケストラの編成が最もふさわしいと考えている。

本日演奏する「交響曲第7番」は、狂気と紙一重の爆発的なエネルギーに満ちた曲であるから、上述のような創立以来のわれわれの演奏ポリシーから最も遠い対極にある作品であると言っていいだろう。モーツァルト室内管弦楽団のあり方がこの曲の演奏によって問われることになるわけである。だがこの作品は前述のようにピュアな絶対音楽であり、ハイドン、モーツァルトによって築かれた古典派様式に、かなり拡張されてはいても、しっかりと基づいている。モーツァルト室内管弦楽団のレパートリーとして完全にふさわしいものであると確信する。

交響曲 第1番 ハ長調

1799~1800年、ベートーヴェン29~30歳の作品。2年後に書かれる第2番とともに、交響曲の形式を確立したハイドンのスタイルが踏襲されている。ハイドンと明瞭に異なるのは第3楽章がメヌエットでなく、同じ3拍子でもテンポの速いスケルツォになっていることである。ただこの第1番だけは「メヌエット」という古い表示が付けられている。全体として単純明快な曲想が多いが、随所にベートーヴェンらしさが現れてきている。若いベートーヴェンの傑作として十分に楽しめるものとなっている。

ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調

今日、ピアノ協奏曲 第1番とされる作品より少し前に作曲された曲であるが、出版の順序が入替わり第2番となった、ベートーヴェンの事実上の最初のピアノ協奏曲である。5曲のピアノ協奏曲の中ではモーツァルトの影響が最も強く現れている。たとえば、第1楽章において、オーケストラの前奏に続いて独奏ピアノが登場するところ、主題を奏する前に華やかな「つなぎ」があることなど(私はこれを歌舞伎役者が登場して見得を切るのにたとえている)。第2楽章は早くもベートーヴェンらしい「偉大な」(皮肉を言えば「偉そうな」)アダージョになっている。第3楽章はモーツァルトがこの曲と同じ変ロ長調の協奏曲(第15番K.450、第18番K.456、第27番K.595)で用いた「ハンティング・ロンド(狩のロンド)」のスタイルである。モーツァルトをモデルとしながらもベートーヴェンらしいスケールの大きさが認められる傑作であろう。

交響曲 第7番 イ長調

1811~12年、ベートーヴェン41~2歳の作品(同時期に交響曲第8番が並行して作曲されている)。第1楽章に序奏があるのは9曲の交響曲のうち第1番、第2番、第4番とこの曲だけである。楽章それぞれに特徴的なリズムが配されているのが顕著な特徴で、ワグナーはこれを「舞踏の聖化」と呼んだ。第2楽章はベートーヴェンが書いた最も美しい緩徐楽章であろう(初演時にアンコールされている)。第3楽章、第4楽章と進むにつれて音楽は高揚していき、最後は熱狂的な興奮のうちに曲を閉じる。



モーツァルト室内管弦楽団 *Mozart-Kammerorchester Japan*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40数年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07~09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09~11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

●メンバー	コンサートマスター	釋 伸司								
第1ヴァイオリン	釋 伸司	本多 智子	谷口 朋子	北村 奈美	松本 紗希	大西 秀朋				
	森住 憲一	中野 瑞己								
第2ヴァイオリン	中川 敦史	増永 花恵	川島多美子	田原口安代	池内 美紀	清水めぐみ				
ヴィオラ	道幸 明美	灘儀 育子	三上 哲	高野ちか子						
チェロ	野田 祐子	境 綾子	三宅 香織	石塚 俊						
コントラバス	南出 信一	北田 由美	松本 友樹							
フルート	大江 浩志	本庄ちひろ								
オーボエ	戸田めぐみ	中江 暁子								
クラリネット	高橋 博	門 小夜子								
ファゴット	佐伯 利之	倉永 晴美								
ホルン	佐藤 明美	垣本奈緒子	世古宗 優	小坂 智美						
トランペット	大西 由起	森下 智稔								
ティンパニ	福井 鈴									
インスペクター	中川 敦史									
ライブラリアン	本多 智子									

門 良一 ● 指揮 *Ryoichi Kado, Dirigent*

1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉 弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立した。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シブリアン・カツリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



上野 真 ● ピアノ *Makoto Ueno, Piano* <http://www.makotoueno.jp/>

祖母と父親がオルガニストの家庭に育ち、4歳からピアノを始める。幼少時に鈴木吟子、宮沢明子両氏に師事。16歳で単身渡米し、フィラデルフィア・カーティス音楽院にて、故J.ボレット、G.グラフマン両氏の元で薫陶を受ける。その後1987年から1991年迄オーストリア・ザルツブルク・モーツァルテウムにて故ハンス・ライグラフ氏に師事。故ミエチスラフ・ホルショフスキー、レオン・フライシャー、故エドワード・オードウェル、故フェリックス・ガリミール、故ロザリン・トゥーレック、アンジェイ・ヤシンスキ、故ジェイコブ・ラタイナー、ラドスラフ・クヴァピル各氏から様々な音楽的助言を受けている。1984年にはBBCテレビに出演。翌1985年には、カーネギー・リサイタルホールやJ.F.ケネディセンターなどでも演奏した。

メリーランド国際(1985・ワシントンD.C.)、バーゼンドルファー・エンパイア国際(1986・ブリュッセル)、ジュネーヴ国際(1988)、オルレアン20世紀(2002)、リヒテル国際(2005・モスクワ)などのコンクールで上位入賞。現在までソロの演奏会を、日本各地、タイ、韓国、アメリカ合衆国、ドイツ、チェコ、ベルギー、オランダ、フランス、オーストリア、メキシコ、ロシア、ラトヴィア、トルコなどで行い、また協奏曲では、札幌交響楽団、京都市交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、大阪シンフォニカー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、チューリヒ室内管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ナショナル交響楽団(ワシントンD.C.)、モスクワ放送響、スタヴァンゲル交響楽団(ノルウェー)、サマラ交響楽団(ロシア)、UNAM管弦楽団(メキシコ)等、各国のオーケストラと共演している。また2004年より、19世紀から20世紀前半のフォルテピアノやピアノの名器を使つての演奏会を、京都、大阪、名古屋、東京、札幌など日本各地で開催、又それらの名器を駆使してのレコーディングも精力的に行っており、高い評価を得ている。2004年にリスト・超絶技巧練習曲全曲とトランスクリプションのデビューCDをリリース(Octavia)。2006年にはSACDのアルバム、「3つのモダン・タイムズ/ドビュッシー・バルトーク&ストラヴィンスキー」を発表(Octavia)。2011年には、歴史的楽器、1816年製ブロードウッドと1820年製マテウス・シュタインを使った「ベートーヴェンのピアノソナタと幻想曲」のソロアルバムを発表(Octavia)。2013年春には1925年製ニューヨーク・スタインウェイを使用したラフマニノフとドビュッシーのアルバムをリリース(若林工房)、11月には1846年製ブレイエルと1852年製エラルールを使用したショパン・ソナタ集のアルバムを発表(Octavia)。いずれもレコード芸術誌特選盤、および準特選盤。2014年9月には1852年製エラルールによるリストのアルバムを発表、12月にはNaxosレーベルから、フルーティスト瀬尾和紀とのコラボレーションによる、モシェレスの作品集、ツェルニーの作品集がリリース予定である。1996年以来京都を拠点とする。京都市芸術新人賞、青山バロックザール賞を受賞。現在京都市立芸術大学音楽学部准教授。近年名古屋音楽大学客員教授、桐朋学園大学院大学特別招聘教授としても後進の指導にあたっている。日本音楽コンクール、全日本学生コンクール、宝塚ベガ音楽コンクール、松方ホール音楽賞等、国内主要なコンクールの審査員を務め、ドイツ、トルコ、韓国など海外でもマスタークラスを行うなど、教育的活動にも力を入れている。

◆第165回定期演奏会〈創立45周年シリーズ〉第4回

2015年7月19日(日)午後2時 いずみホール

〈モーツァルトとハイドン〉その9

モーツァルト:交響曲 第36番 ハ長調 K.425 《リンツ》

モーツァルト:ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲

変ホ長調 K.364

ハイドン:交響曲 第88番 ト長調 Hob.I-88

ヴァイオリン:馬淵 清香 ヴィオラ:馬淵 昌子

コンサートマスター:釋 伸司 指揮:門 良一

★出張演奏いたします!★

モーツァルト室内管弦楽団があなたのお手伝いを致します。パーティやイベントを音楽で盛り上げましょう。小は二重奏から大は40人のオーケストラまで、ご予算に応じた編成をご提案します。曲目等のリクエストに応じます。お問い合わせはお気軽に下記までお願いします。

TEL/FAX:(075)981-0870

会 長 谷 口 安 平 (京都大学名誉教授)
 監 事 玉 井 英 二 (三井住友カード特別顧問)
 顧 問 伊 藤 郁 太 郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅 原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)
 (50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業 遺族支援ネットワーク 関西電力 きんでん 小林製薬 阪野商店	三 孝 社 サントリホールディングス 新日鐵住金 住友精密工業 住友生命保険 住友倉庫	ダイキン工業 大同メカレン지니어リング 高松建設 中西金属工業 林 山 製 紙	マ キ 工 業 丸 山 興 産 三 井 住 友 カード 三 井 住 友 銀行
------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-------------------------------------------------

《個人会員》(入会順・敬称略)

深福梅石田岸梅屋國稻浮桑三三水渡平安橋阿中村松笹緒確確長岸能宮祐金 田岡原本村田村良友垣田山谷浦島辺川藤本部川本本川林井井田田井野定 晴隆一三眞克博巳佐正千代俊弘郁信敬優美邦太由泰孝幸忠桂昭みち重多茂尚秀嘉 世子哲也己也治和子太郎子一郎夫津子洋幸夫道士彦子龜門豊治子光也子 菅日藤馬阪和桑石高川中中豊切中三神杉野今玉野橋有佐小田島松得菱足東豊 正 啓明和暁孝正方啓武佐和子詞富武恒和安隆志靖熙哲陽 四 とも 栄勝次郎治武次郎 紘 徳穂助和子夫子男宏助司和子道子透男子朗昭雄郎一朗猛子藏郎治生 飯宮塩河佐荒宮栗野野森小野松山山大細大大山速橋梁松山萬佐八高松西 田井脇脇瀨竹木崎原口口本山原井井本磯井原原村水本瀨山谷下野野木田田垣 祐芳昭祥清時陽悦順祐外志 清基香代隆提清典哲洋 壽郁鉄尊哲孝早富眞 子子司子子子子朗子三子武浩秀純子子一吉司子夫紀博健一子男昭昭昌 榎渡小能河宮奥市榭深加統安門早森片片長前富村乾井井原村東増 曾我見瀬阪松 原辺川田井北村崎木山藤池井 川原岡岡谷田田井 狩狩田上 見 瀬阪松 良義雄久洋 浩 一英好 啓美敏謙二俊隆寛友 純恭幸賢彌啓隆小里達英郁重満里規 行明介美子司二二明浩子雄二郎六繁子子登一弘雄次介子宏子香生夫喜満子 近阪松増宇高後今今島青那文富士土福富森笠米太富和上栢小早川岡葉 匿名 3名 藤本江田民松藤西西村山須野田橋橋谷田崎松坂田田田田田 吟眞紀夫清恵朗 康延忠明 孝喬三道須美由一彰昭康瑞 茂嘉義 真久みつき吟眞紀夫幸明 博夫二子正之雄郎子子子子藏子男枝巖利之男享知子枝夫清恵朗

会 費 ・ 個人会員につきましては年会費1口2万円です。 ・ 法人会員につきましては年会費1口10万円です。
 会員の特典 ・ 年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
 ・ ご同伴者は10%割引となります。
 ・ 関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
 ・ 定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 ・ 会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。